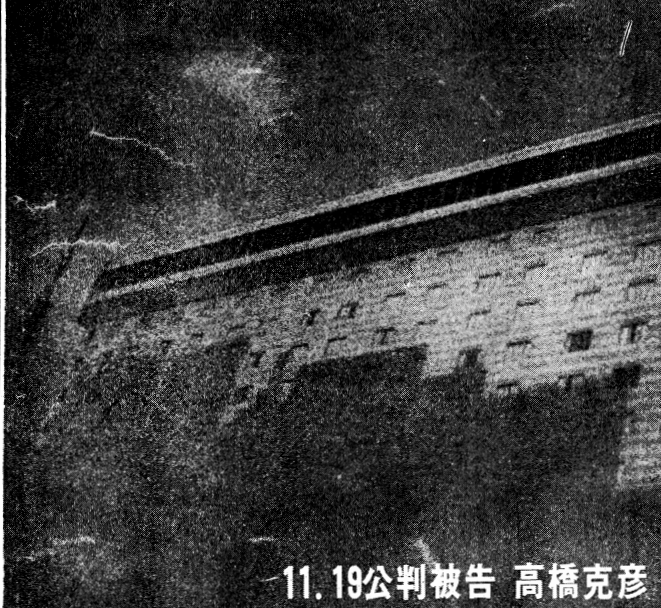


11.19公判断章—その3— 影のない風景



11.19公判被告 高橋克彦

「公判」の維持と 反弹圧闘争

「公判」の維持と「反弹圧闘争」の行方。これは、11.19公判の中心テーマである。公判の維持は、単に裁判の進行を待つだけでなく、社会情勢の変化を反映させる必要がある。反弹圧闘争は、公判の公正性を確保するための重要な手段である。この闘争は、学生、教職員、市民の連帯によって進められるべきである。公判の維持と反弹圧闘争は、互いに補完し合うものである。公判の維持がなければ、反弹圧闘争は無力である。逆に、反弹圧闘争がなければ、公判の維持は形骸化する。したがって、公判の維持と反弹圧闘争の両方を同時に進めなければならない。これは、11.19公判の成功のための唯一の道である。

大新聞争から 学費闘争へ

大新聞争から学費闘争へ。これは、学生運動の新たな展開を示している。大新聞争は、言論の自由と表現の自由を争った闘争であった。学費闘争は、教育の機会均等を争った闘争である。両者は、同じ目的を追求している。それは、社会正義の実現と、学生生活の改善である。大新聞争の経験から、学費闘争は、より効果的な闘争方法を見学することができる。学費闘争は、大新聞争と同じく、学生、教職員、市民の連帯によって進められるべきである。学費闘争の成功は、大新聞争の成功と同じく、社会正義の実現につながる。したがって、学費闘争を積極的に進めなければならない。これは、学生運動の発展のための唯一の道である。

共犯者の共生は 連帯か

共犯者の共生は、連帯か。これは、11.19公判の重要なテーマである。共犯者の共生は、単に法的な問題ではなく、社会的な問題でもある。連帯は、共犯者の共生を実現するための重要な手段である。連帯は、共犯者の共生を促進し、社会正義の実現につながる。したがって、共犯者の共生は、連帯によって進めなければならない。これは、11.19公判の成功のための唯一の道である。

共犯者の共生は 連帯か

共犯者の共生は、連帯か。これは、11.19公判の重要なテーマである。共犯者の共生は、単に法的な問題ではなく、社会的な問題でもある。連帯は、共犯者の共生を実現するための重要な手段である。連帯は、共犯者の共生を促進し、社会正義の実現につながる。したがって、共犯者の共生は、連帯によって進めなければならない。これは、11.19公判の成功のための唯一の道である。

1973・4・5～1974・2・14	目次編
明治大学新聞	ダイジェスト
1302号～1313号	

●9カ月のアルバイトでヨーロッパ見学へ！

朝日洋上大学

第六期生追募中
ヨーロッパセミナー

朝日洋上大学は、自力の限界に挑もうとする若者のために開かれた門です。大学生で朝日新聞の朝・夕刊の配達に9カ月間従事すれば、その間のアルバイト料と、主催者からの補助金で見学(ヨーロッパ9日間)の経費全額が得られます。

★ いま、4月20日締め切りで六期生追募中です。詳しくは下記へお問合せ下さい。

〒100 千代田区有明2-2-3 朝日新聞社内 朝日洋上大学事務局 電話 272-4155 内線319